



和知小だより



《学校の教育目標》 心豊かでたくましい実践力をもつ子

平成30年1月9日

「あたりまえのこと」の中にあるもの

校長 加藤 辰司

和知小学校児童の保護者の皆様、そして地域の皆様方、あけましておめでとうございます。旧年中は、いろいろな場面で和知小学校のためにご支援、ご協力をいただき、誠にありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願いたします。



さて、いよいよ平成30年が始まり、平成29年度も残り3か月となりました。本年度は、すでにご存じのように昨年度から継続してきた「きたえる」というキーワードに加えて、「パッテロースピリッツ」を合言葉として、様々な場面で取り組んできました。その成果は、これまでも校報等でお知らせしたとおり、着実に表れてきています。そして徐々にではありますが、子どもたち自身のなかにも、その言葉が浸透してきているという実感を私たち職員一同持っています。

そこで3学期は、来年度につなげる上でも、それを行事などの点としてではなく、日常の中で線としてお互いに実感できるようにしていきたいと考えています。

といいながら、実はすでに子供たちの中にはその心は無意識の中に育っているものがあることを私たちは知っています。

例えば、雨の日の登校後の児童玄関前にその姿は見られます。晴れた日には、できるだけ早く運動場で遊びたいがために急いで教室に行っかばんを片付けに行く子供たちがいます。しかし、雨の日は、なかなか児童玄関の中にさえすぐには入ろうとしません。それは、子供たちが必ず児童玄関に入る前にある行動をするからです。その行動とは、傘についた雨滴をできるだけ払い、傘をきちんとしぼるという行動です。その行動自体は、八百津町の教育の方針と重点でも大切にしている「**あたりまえのことをあたりまえに**」しているものです。しかし、ここまで1年生から6年生までのほとんど全員の子が、きちんとできる姿には、本当に驚かされます。そしてその姿を生み出しているのは、実は、上の学年の子たちが、上手にできない1年生など低学年の子たちの傘をしぼるのを優しく手伝ってあげている姿があるからなのです。

この「傘の水滴を払ってしぼる」という行為自体が、すでに他の人たちが気持ちよく傘立てを使えるようにするという「パッテロースピリッツ」につながる意識です。そして、もちろん上の学年の子が下の学年の子の笑顔のために優しく手伝ってあげるといった行為も同様のものです。

私たちは、この「あたりまえのこと」の中にある無意識の「パッテロースピリッツ」の価値をまず、共有化していきたいと考えています。その上で、そこにつながる行動をさらに増やしていきます。

とはいえ、課題はたくさんあります。例えば年末にご協力いただいた学校評価アンケートにも出てきた地域でのあいさつの少なさなどは、ここ数年来の本校の課題でもあります。これらの課題を少しずつ克服することが、結果として目指している学校づくりにつながると思っています。

本年も皆様のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。